

学位(論文博士)論文審査及び学力の確認報告書

2022 年 2 月 8 日

人間文化学研究科長
野 田 春 美 様

学位論文審査委員会

審査委員長 山 本 恭 子

審査委員 石 崎 淳 一

審査委員 早 木 仁 成

審査委員 秋 山 学

審査委員 鈴 木 直 人



本学学位規則第 8 条第 2 項の規程により、論文審査の要旨、学力の成績及び
学位の授与に関し下記のとおり報告いたします。

記

学位申請者	黒川 優美子
論文題目	欺瞞における意図の曖昧性に関する心理学的研究

論文審査の要旨及び学力の成績

1. 本論文の概要

本論文は、欺瞞の要件として必須と考えられてきた行為者の意図性に着目し、欺瞞の行為者と受け手の双方にとって欺瞞であるか否かを弁別することが困難である意図の曖昧な欺瞞的行為に関して心理実験を用いて検討したものである。論文は全体として 5 つの章から構成され、大学生および成人を対象とする 2 つの心理実験を通じて、欺瞞における行為者の意図の曖昧さが欺瞞行動に及ぼす影響を明らかにしている。

第 1 章では、心理学および行動経済学における欺瞞に関する先行研究を概観した上で、行為者の明瞭な意図を欺瞞の必要条件とするか否かにおいて両分野での認識が異なることを指摘した。そして、欺瞞的行為は故意か否かが弁別される可能性を欺瞞の行為者はどのように認識しているかが欺瞞の出現において重要であることを指摘し、この問題に関する実証的研究の重要性を述べた。

第 2 章から第 4 章では、インターネットで募集した一般成人を対象とするオンラインでの心理実験（第 2 章）や、大学生を対象に心拍計測による生理指標を用いた心理実験（第 3 章・第 4 章）を実施し、行為者の意図の曖昧さと欺瞞行動との関連を検討した。主な知見として、①欺瞞的行為の意図の曖昧性が高く、その行動の誘因が大きい場合に欺瞞の頻度が増す、②欺瞞の上達可能性を高く認識するにつれ①の傾向が顕著になる、③意図の曖昧な欺瞞的行為の試行錯誤的な反復が意図の明瞭な欺瞞を増加させる、④意図が明瞭な欺瞞を行う際に一時的な心拍の減速が見られる、とまとめることができる。最後の第 5 章では、すべての知見を統合し、意図の曖昧な欺瞞的行為の繰り返しにより欺瞞を誘発するという結論を得た。

2. 本論文の特色と評価

本論文は、実験心理学における研究手法を駆使して意図の曖昧な欺瞞的行為を巧みに操作し、欺瞞的行為の増減のみならず、犯罪心理学で重用される生理指標も活用し、欺瞞的行為に係る心的過程を検討した点は高く評価できる。欺瞞に係る行動科学としての研究は、ある行動が意図的な欺瞞であるか否かを注視する犯罪・社会心理学研究と、誤りも含む欺瞞的行為の増減に着目する行動経済学的研究とに分断されてきた。行為者の意図性を欺瞞の必要条件とみなすか否かに関して、犯罪・社会心理学および行動経済学での認識が異なることを本論文において明確に示したことは、犯罪・社会心理学および行動経済学、双方の研究知見の整理・統合を図る観点から一定の評価を与えることができる。

3. 判定

博士論文の提出要件については、すでに予備審査委員会において充足していることが確認されている。本審査委員会において本論文が人間文化学研究科学位論文審査基準を満たしていることが確認された。また、学力の確認に関しては、人間文化学研究科の論文博士の学位授与に係る審査手続き内規第 7 条 (8) ③の要件を満たすことが確認された。本論文は、意図の曖昧な欺瞞的行為に関して心理実験を用いた基礎研究として、オンラインによる心理実験への挑戦も含む貴重な研究成果が示されており、博士(人間文化学)の学位を授与するに相応しいものと認める。